



2026年9月3日

各位

会社名 ヤマトホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 櫻井 敏之
(コード番号：9064 東証プライム)
問合せ先 専務執行役員 CFO 野村 優
(TEL. 03-3541-4141)

国内線貨物専用機の運航完了に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、日本航空株式会社（以下、JAL）との国内線貨物専用機（以下、国内線フレイター）の運航の完了について決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 本件の概要

当社は本日、当社が導入いたしました国内線フレイターの運航完了を決議するとともに、JALとの間で締結している国内線フレイターの運航に関する契約を完了する覚書を締結いたしました。

2. 決定の理由

当社グループおよびJALグループは、物流の「2024年問題」等に伴うトラック輸送力の低下といった、物流を取り巻く環境の変化に対応し、安定的な輸送力の確保とサービス品質の維持・向上に向けた新たな輸送手段として、2024年4月より国内線フレイターの運航を開始いたしました。

現状、トラック輸送は人手不足や燃料高に伴う輸送コストの上昇が避けられない状況となっております。しかし、航空輸送においても継続する円安や燃油高により輸送コストが上昇し、ト

ラック輸送と航空輸送の価格差は当初想定に反して拡大してしまっている状況です。こうした課題に対し、国内線フレイターの運航継続に向けて、費用効率化の推進や路線の見直しによる需給の適正化、フレイターの特性を生かした高付加価値サービスの提供による市場開拓に注力してまいりました。

しかしながら、現在の環境下において、安定した輸送サービスを持続的に提供するためには、国内線フレイターの運航を完了し、旅客便ネットワーク（旅客便ベリー）を含む代替の輸送手段をより一層活用することが最適であるとの判断に至りました。

３．今後の見通し

（１）今後の方針等

現行の国内線フレイターの運航は2027年6月までを目途としております。現在ご利用いただいているお客様に対しては、旅客便ベリーを含む当社グループおよびJALグループの輸送ネットワークを活用し、代替輸送手段への円滑な移行を進めるとともに、引き続き安定的かつ持続的な輸送サービスを責任をもって提供してまいります。

特に半導体・自動車に代表される工業製品や農水産品などの需要増加が期待される九州、北海道エリアにおいては、国が国際航空物流拠点としての機能強化を推進する北九州空港や新千歳空港を中心に引き続き旅客便ベリーを含む航空輸送を活用することで、これまでの輸送品質と利便性を維持し、地域ごとの物流ニーズに応じた適切かつ発展的な輸送体制を構築してまいります。

当社グループおよびJALグループでは、今後も旅客便ベリーを含む経営資源の活用やノウハウの共有を通じ、持続可能な物流ネットワークの構築に向けて、国の総合物流施策大綱に示される「新モーダルシフト」の推進に寄与するとともに、地理的優位性等の各地域の特性を生かした地方創生への貢献や地域の産業発展・輸送促進に尽力してまいります。

（２）当期（2027年3月期）業績への影響

前述の通り、運航は2027年6月までを目途としており、当期の連結業績予想に与える影響は軽微であると見込んでおります。

なお、運航の完了に伴い発生する特別損失等の具体的な金額につきましては、現在精査中です。今後、開示すべき事項が生じた場合には、速やかに開示いたします。

以　上